

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

この何十年か、「個性」や「オリジナリティ」の重要性がずいぶん強調されてきました。個性重視というのは、「今・ここにいます・私」を絶対化することです。でも、個性というようなことをあまり軽々に使うのはどうかと思います。これはけっこう危険なことばだからです。

ぼくたちが共有している「文化の地平」に収まらない異物は、そもそも知覚も思考もされない。自分では「個人的なものの方」と思っていることが、ある世代まるごと共有されている、「縛り」であるという事は、同世代や同類たちとつるんでいられるだけでは絶対に分らないのです。

ぼくは一年近く、鈴木晶さんとメールで往復書簡をしました。鈴木さんはぼくと一つ違いで、同じような東京の進学校を出て、大学も一緒、その後大学院に行って、やっていた仕事にもずいぶん共通点があります。

そういう人と意見交換してみたら、それまで自分の個性だと思っていたもののうちのかなりの部分が、一九五〇年東京生まれの同時代人に共通のものだ、ということに気づかされました。

そういう同世代の共通項を控除して、その後に残るもの、それがとりあえず「私の個性」と呼べるものなわけです。そういう「すり合わせ」をしていかないと、自分が「個性」だと思い込んでいたものが、実はある時代や、ある地域の文化が作り上げてきた「民族的偏見」にすぎなかったということにはなかなか気づきませぬ。

自分と自分の同類たちを共同的に制約している「縛り」に気づくのに一番効果的なアプローチは異文化との接触です。

たとえば、英語の人としゃべっていると、英語では言えないことが自分の中にある、ということに気づきます。英語で「それじゃ、日本の文化について語ろう」ということになったとき、こちらの口から出るのは、結局ストックフレーズなわけです。英語の本でこれまで読んできて、まるごと覚えたストックフレーズばかりが口について出てきてしまう。

そういう局面で、ぼくの口から出てくることばは、たいてい欧米の人たちが日本を批判するときの決まり文句です。

しかたがないですよ。

英語でうまくしゃべるということは、英語的なワーディングで、英語的なアクセントで、「いかにも英語圏の人間が言いそうなこと」を再現してみせるということなんです。

英語話者には思いもつかないようなアイデアは、伝えようとしても伝えられない。だって、それを語る単語や表現を、これまで英語の本で読んだこともないし、英語で話しているのを聞いたこともないんです。英語に堪能になるというのは、要するに、英語のストックフレーズをたくさん覚え込んで、英語圏の人たちが「言いそうなこと」を同じような口調で復唱することになってしまうのです。

以前サンフランシスコに行ったときに、帰りの空港のカウンターで、空港職員の状態が非常に悪かったことがありました。長い間人を待たせておいて、だから仕事をしているし、割り込む人がいても、それを咎めもしない。ぼくは二〇分くらい待たされた果てに、腹が立ってきて、ついカウンターをばんと叩いて、「ぼくは二〇分ここで待っているが、君はさらに何分ぼくを待たせるのか」と怒鳴ったのです。

この瞬間、ぼくは自分の英語があまりに滑らかだったのでびっくりしました。

あ、そうか、英語というのは「私が正しい、君は間違っている、私には権利がある、君には義務がある」というようなことを言おうとすると、すぐスムーズに出ることばなんだ、ということが腑に落ちました。

「まず怒鳴る」と実際にアメリカ的な語り口になるんです。「あ、すみません。勝手なお願いですけど、聞いていただけますか?」とか、「おつしやることは確かによく分かるんですけども、ちょっと微妙に違うんですよ。英語で語るということは、英語話者たちの思考のマナーや生き方を承認し、それを受け容れるということなんです。

逆から言うと、日本語で思考したり表現したりするという事は、日本語話者に固有の思考のパターン、日本人の「種族の思想」を受け容れるということです。

そういうふうにして、自分が「個性」だと思っていたものの多くが、ある共同体の中で体質的に形成されてしまった一つの「フレームワーク」にすぎない、と気がつくわけです。

じゃあ、自分はいったいどんなフレームワークの中に閉じ込められているのか、そこからどうやって脱出できるのか、というふうに関心を立てるところから、はじめて反省的な思考の運動は始まります。

「私はどんなふうに関心を感じ、判断することを制度的に強いられているのか」、これを問うのが要するに「思考する」ということです。

若者たちはオリジナルであることが大好きです。でも、彼らが自分のかけがえのない個性だと思ってるものの九五パーセントくらいは、実は「既製品」なのです。

(内田樹 『疲れすぎて眠れぬ夜のために』 角川書店 二〇〇三年より)

なお、出題にあたり一部文字の表記を変更した箇所がある。

設問

この文章を読み、二〇〇字程度で要約しなさい。さらに著者の意図することを踏まえて、自分の「個性」とどのように向き合い、大学生活を過ごそうとするのか、あなたの考えを述べなさい。全体で八〇〇字以内(厳守)とします。